

市場調査会社のインフォトレンズ社が開催した“サブライ (消耗品) 市場コンファレンス2015”に参加する機会を得たので、その概要を紹介する。このコンファレンスはプリンタやデジタルプレス等の消耗品市場に焦点を当てたセミナーで、参加者はプリンタメーカーや材料メーカーが中心となっていた。

オフィス用プリンタ市場は頭打ち

世界市場でのオフィス用プリンタ設置台数は2013年に1.48億台で、2018年までの見込みも横ばいとなっているが、地域ごとで見ると米国と欧州では2013年から減少傾向にある。これはプリンタの性能が向上していることや、先進国ではプリンタや複写機の全社的な効率運用を受託するプリントマネージメントが普及していることなどが背景にある。またプリント枚数も2013年の2.64兆枚から2.74兆枚へと微増程度で、プリンタ台数と同様に米国・欧州でのプリント枚数は減少している。オフィス用プリンタの消耗品市場規模は2013年に約370億ドル（1ドル120円換算で4.44兆円）で、この市場もほぼ横ばいとなっている。このようにオフィス用プリンタ市場は、全体で見るとプリンタ・プリント枚数・消耗品ともに伸びが止まっており、変化としては先進国市場で減少している分を新興国市場が補っているといった状況となっている。

プロダクションプリンタ市場は台数が微増だが、プリント枚数は増加

プロダクションプリンタは設置台数が2013年に78万台が2018年に79.5万台と微増程度だが、プリント枚数は2013年に1.04兆枚であったものが2018年には1.25兆枚に増えると見込まれている。これを地域別にみると、欧州のみが横ばいで、アジア、中・東欧、南米、米国は継続的な増加が見込まれている。プロダクションプリンタの消耗品市場は2013年の100億ドル（1.2兆円）から、2018年の102億ドル（1.22兆円）とほぼ横ばいの状況となっている。これはより高性能のプリンタが増え、台数は増えなくてもプリント枚数は増えることと、インクジェットプリンタの比率が増えるにつれて消耗品のコストが下がることに起因する。

家庭用プリンタの市場は減少に転じる

2013年の設置台数は2013年の3.66億台から2018年の3.21億台へ減少するとともに、プリント枚数も2,310億枚から1,970億枚へと減少し、消耗品の市場規模も270億ドル（3.24兆円）から206億ドル（2.47兆円）へと減少すると見込まれている。これはネットやモバイル端末、スマホの増加に伴いプリントの必要性が低下してくることによる。

プリンタ市場全体が既に頭打ちになっている中で唯一成長が見込まれているのは、プロダクションプリンタによるプリント枚数で、特にインクジェットの増加が見込まれている。この点からもプリンタメーカー各社がプロダクションプリンタに力を入れてきている理由がよく分かる。ただし、プロダクションプリンタ市場でも消耗品の市場規模はほぼ横ばいで、プリンタ全体で見るとパーソナル分野での落ち込みもあり消耗品の市場規模は減少に向かっている。このようにプリンタ市場全体の傾向としては設置台数、消耗品の両面からも厳しい局面を迎えつつあることがわかる。

最後に各分野のプリント枚数で見たプリンタメーカーのシェアを表2に紹介する。

表1. 各分野のプリンタ主要指標比較 (2013年)

	オフィス	プロダクション	パーソナル
設置台数	1.48 億台	78 万台	3.66 億台
プリント枚数	2.64 兆枚	1.04 兆枚	2,310 億枚
消耗品市場規模	370 億ドル (4.44 兆円)	100 億ドル (1.2 兆円)	270 億ドル (3.24 兆円)

表2. 各分野のプリント枚数ベースでのシェア

メーカー	オフィス	プロダクション	パーソナル
HP	27	5	47
ブラザー	9	-	5
ゼロックス	9	27	-
キヤノン・オセ	8	29	22
Lexmark	8	-	2
サムスン	7	-	-
リコー	7	21	-
京セラ	-	-	-
コニカミノルタ	5	7	-
エプソン	-	-	24
その他	15	11	-

出典：インフォトレンズ